

原発災害下の福島でみられた活動に学び、
将来の協同組合活動を考える 待望の1冊！

『原発災害下での暮らしと仕事 生活・生業の取戻しの課題』

企画：協同組合研究誌「にじ」編集部
監修：小山良太・田中夏子

福島原発事故後の、福島県内の第一次産業を中心に、地域の暮らしと仕事の現状、憤り、そして暮らしと生業を取り戻そうとしている協同組合や組合員の活動と、あたり前の暮らしを取り戻そうという人びとの取り組みを専門的な立場から、実践、提言、分析に取り組んできた方々に執筆をお願いしました。



はじめに (田中夏子) / 第1章「福島事故一過去・現在・未来」(館野淳) / 第2章「原子力災害から4年目の福島一食・農・くらしの再建と協働一」(小松知未) / 第3章「原子力災害からの山村の復興と森林組合の『協同の任務』」(早尻正宏) / 第4章「放射能汚染からの農と暮らしの復興と協同組合の役割」(小山良太) / 第5章「試験操業に託した福島県の水産復興と社会災害一協同組合は汚染水漏洩問題にどう立ち向かうのか一」(濱田武士) / 第6章「3.11を生きる二本松市東和地区に学ぶ一自給と暮らしの取戻しに向けて一」(飯塚里恵子) / 第7章「福島子ども保養一協同の力で被災した親子に笑顔を一」(西村一郎) / 第8章「原発災害による避難農家の再起と協同組合の役割一離農の悔しさをバネに『福島復興牧場』を建設へ一」(河原林孝由基) / 第9章「加害者保護へ向かう原子力損害賠償制度一議論なき改定、再び事故へ一」(本間照光) / 第10章「原発に頼らない電気を自分たちで作る一福島から全国へ、福島県農民連による自然エネルギー発電所づくり一」(豊田陽介・佐々木健洋) / 第11章「避難女性農業者による『小さな復興』の取り組み一福島県飯舘村を事例に一」(岩崎由美子) / 第12章「福島県における協同組合間協同一地産地消ふくしまネットの歩み一」(阿高あや) / 第13章「風評被害の構造と5年目の対策」(関谷直也) / 第14章「福島県が抱える風評問題と地産地消を取り戻す意義一流通からのアプローチ一」(則藤孝志) / 第15章「原発災害下での暮らしと仕事一座談会」(熊谷純一・大内信一・小山良太・田中夏子)

定価 1,800 円 + 税 → JC 総研では 1,600 円 (税込) で発売中